

学位論文

植民地ジャーナリズムの生成過程：
19世紀のオーストラリア植民地

博士（新聞学）

学位申請者

鈴木 雄 雅

上 智 大 学

2001 年

まえがき

筆者がオーストラリアのジャーナリズムに興味をもつようになったのは、大学院に進学して本格的に新聞学を学び始めてからのことである。きっかけは当時ゼミの指導教授をお願いした小糸忠吾先生のご示唆によるものであった。しかし、今日でも米国・欧州を除けば、外国ジャーナリズムに関しての研究がはかどらない現況を見ても、1970年代半ばにおいて国内でこの分野の情報や文献類を入手することは容易でなく、まして史的アプローチを試みようとした筆者は、そうした資料類の探索に多くの時間を費やさなければならないというもどかしさを昨日のように覚えている。

筆者とオーストラリア・ジャーナリズムとは、奇妙な糸で結ばれていたような気がする。というのは、修士論文「明治期の英字新聞と外人ジャーナリスト」(1977年度上智大学提出)を執筆している時、再びオーストラリア・ジャーナリズムに注目することになったからである。幕末・明治初期に外国人居留地で英字新聞を発行し、日本の近代ジャーナリズムの発展に貢献した外人ジャーナリストの中に、当時英領植民地であった南半球のオーストラリア、ニュージーランドからはるばるやって来た者が幾人がいたことが判明したのである。この事実は、「オーストラリア・ジャーナリズム研究」に少なからず関心のあった筆者にとって、強い刺激になったと思う。

そして、オーストラリアから取り寄せる文献類にも限りがあると判断した筆者は博士課程在学中の主要な研究テーマとして、オーストラリアのジャーナリズム史に取り組むために、1978年から80年までオーストラリアに留学することにしたのである。

留学中多くのマス・メディア関係の学者や新聞人に会うことができ、本論文の執筆を勇気づけられたうえ、多岐にわたる示唆を与えてくれたことに感謝している。中でも、シドニー大学大学院でマス・メディア/政治学を教授していただき、未熟な筆者の指導を引き受けてくださったヘンリー・メイヤー教授との出会いは、多方面にわたってオーストラリアのジャーナリズムを研究する機会を与えてくれた。また、次に掲げる方々から提供された有益な文献類は、論文執筆に十分な示唆を含むものであった。記して感謝の意を表したい。

- A. ブキン氏 ニュージーランド国立図書館 資料調査官
- S. カーリー氏 南オーストラリア・フリンダース大学生
- D. M. ドレーク氏 ニューサウスウェールズ州立図書館 資料調査員
- D. M. フレンチ氏 オークランド公立図書館 ニュージーランド資料調査員
- D. C. S. シッソング氏 オーストラリア国立大学 太平洋研究研究員
- R. B. ウォーカー氏 マックオーリー大学 歴史学助教授

(肩書はいずれも1979年)

最後になったが、学部・大学院を通じて筆者の研究を指導していただき、今年度をもって上智大学を去られる小糸忠吾教授には、常に多くの研究示唆をいただき、また留学中にも並々ならぬお世話になったことを含め、深く感謝する次第である。

1981年3月

論文博士号学位申請論文提出にあたって

本論文は1981年3月、上智大学大学院新聞学専攻博士後期課程終了論文(内規)として提出した「オーストラリア新聞発達史 - 植民地ジャーナリズムへの一考察」をもとに、その後学術雑誌などに修正・加筆して発表したものを加えて、新たに書き直したものである(初出一覧は「参考文献」末に一括掲載した)。

オリジナルはオーストラリアの新聞・活字メディアの草創期から19世紀半ばまでを論述したが、本提出論文では電信の敷設により本格的なテレコミュニケーション時代を迎えた植民地におけるニュースの流れと苦悩する新聞人を中心として、今世紀初頭までを補筆した。終了論文提出から既に15年以上経ってしまったが、その内容骨子に大幅な変化はない。むしろ、この間多くのオーストラリア研究者と出会い、研究シンポジウムをはじめとして、研究会への出席や発表の機会を与えていただき、より一層オーストラリアのジャーナリズムへの関心が高まったと言える。忙しさにかまけて論文の提出が遅れたことは、こうした方々にお詫びしなければならない。豪日交流基金在日事務所(東京)の松浦俊郎元副所長、ギルバート・ジョージ、ウエストコット元所長をはじめスタッフの方々には筆者のオーストラリア研究に多くの面で援助いただき、また獨協大学外国語学部竹田いさみ教授、故・川口浩成蹊大学教授にはオーストラリア研究全般にわたり多くのご教示を受け、勇気づけられた。1988年オーストラリア学会設立に関与し、微力ながらお手伝いできたことも忘れられない。

1984年度から母校上智大学新聞学科にて教鞭をとることになったが、春原昭彦・名誉教授、武市英雄教授らをはじめとして多くの諸先生からの励ましと貴重なアドバイスをいただいたことを忘れることはできないだろう。1991年、メイヤー教授が急逝されたのは悲しい出来事であったが、本論の最終執筆に際し、1992年度のサバティカルリープと在外研究(英国・オーストラリア)の機会を快く与えてくださった学科スタッフの方々と上智大学に、深く感謝の意をささげる。またシドニー大学ロッドニー・ティフェン助教授には公私にわたり有益なアドバイザーになっていただき、論文完成を勇気づけられた。本論文の申請直前に師であった小糸元教授が他界されたことは誠に残念である。最後に、妻則子にはワープロ入力や校正など多くの協力を得たことが、本論の提出を現実のものにしたと言っても過言ではない。

2001年3月

上智大学 研究室にて
鈴木雄雅

- 目 次 -

まえがき	i
凡例および資料について	vii
略 記	viii
図表及び出典一覧	x
<u>序 章 研究目的と方法</u>	13
<u>第 1 章 黎明期 ジャーナリズムの夜明け</u>	22
1 最初の印刷機と印刷人	
2 植民地新聞の登場	
『シドニー・ガゼット』/印刷人ジョージ・ハウ	
ロバート・ハウ	
<u>第 2 章 初期のタスマニア新聞界 - 1810 年代</u>	34
1 タスマニア・ジャーナリズムの起こり	
『ダーウェント・スター』	
2 ベントと新聞 2 紙	
印刷人アンドルー・ベント	
謎の『ホバートタウン・ガゼット』 5 月 11 日号	
ベントと『ホバートタウン・ガゼット』	
<u>第 3 章 独立新聞の登場</u>	46
N S W 植民地の概観：1820 年代	
1 『シドニー・ガゼット』独占の終焉	
2 独立紙『ジ・オーストラリアン』	
創刊の背景/W . C . ウェントワースと R . ワーデル	
3 「プレス自由」をめぐる論争	
ブリスベン総督/ダーリング総督と新聞弾圧	
「新聞紙法」と「印紙税法」	
4 N S W 新聞界 4 紙対立	
『モニター』と E . S . ホール/『グリナー』	
<u>第 4 章 N S W 植民地新聞界の発展：1830-50 年</u>	68
N S W 植民地の概観：1830-50 年	
1 その後の独立 3 紙	
『シドニー・ガゼット』/『ジ・オーストラリアン』/『モニター』	
2 『シドニー・モーニング・ヘラルド』の誕生	

3人の若者/『シドニー・ヘラルド』の創刊：1831-40
新『ヘラルド』の出発/ J. フェアファックス

- 3 植民地新聞の発展
『ヒルズ・ライフ』『カレンシー・ラッド』
N. ケンティッシュと新聞/『コマーシャル・ジャーナル』
J. D. ラングと『コロニスト』/『オブザーバー』『センチネル』
多彩な宗教紙の出現/弱小新聞

第5章 タスマニア植民地新聞界 101

- 1 混乱のタスマニア植民地の新聞：1820年代
政府と新聞の対立/2紙の『HTガゼット』
G. T. ハウとJ. ロス/アーサー副総督と1827年法
- 2 1830-50年代のタスマニア新聞界
親政府紙か、反政府紙か
短命な新聞の氾濫：1840-50年代
- 3 19世紀後半のタスマニア・ジャーナリズム
『マーキュリー』とデベイス家/『イグザミナー』

第6章 西オーストラリア植民地新聞界 123

- 1 入植から手書き新聞の登場まで
西海岸へ入植始まる/手書き新聞
- 2 活字新聞に発展
『フリーマントル・オブザーバー』
『パース・ガゼット』とC. マックフォール
『ウェスタン・オーストラリアン』
政府系新聞との対立/プレスに対する規制
- 3 植民地ジャーナリズムからの脱皮

第7章 南オーストラリア植民地新聞界 139

- 1 入植
- 2 『レジスター』
イギリスで発行された『レジスター』創刊号
『レジスター』第2号
- 3 競争・対立
競争紙『サザン・オーストラリアン』の登場
『政府ガゼット』と『レジスター』
- 4 植民地新聞の苦悩と発展
トーマス商会の破産/地方紙の躍進/混迷からの脱出

第8章 ビクトリア植民地新聞界 159

- 1 手書き新聞の登場
『メルボルン・アドバタイザー』
- 2 ポートフィリップ3紙鼎立の時代
『ポートフィリップ・ガゼット』
『ポートフィリップ・パトリオット』
『ポートフィリップ・ヘラルド』
- 3 1840年代の植民地新聞界
拡大するコミュニケーション/『ヘラルド』が生き残る
傑出した新興紙『アーガス』
ゴールドラッシュとビクトリア新聞界

第9章 新聞大衆化の幕開け(1): シドニー新聞界の成立 178

19世紀後半の植民地社会の発展

植民地新聞界 1850 - 90年代

- 1 フェアファックス一族とシドニー新聞界
『ヘラルド』/『シドニー・メール』、夕刊紙『エコー』
- 2 H. パークスと『エンパイア』
- 3 S. ベネットと『イブニング・ニュース』
ベネット以後の『ニュース』帝国

第10章 新聞大衆化の幕開け(2): メルボルン新聞界 191

- 1 『ジ・エイジ』創刊
- 2 D. サイムと『ジ・エイジ』
ディビッド・サイム/『ジ・エイジ』をつくったジャーナリスト
- 3 競争紙『アーガス』
卓越した記者たち
- 4 19世紀後半のビクトリア植民地新聞界
夕刊紙の競争、『ヘラルド』が生き残る/日曜紙・地方紙

第11章 19世紀後半の植民地新聞界 208

- 1 クインズランド植民地
最初の新聞『モートンベイ・クーリア』/C. H. ブザコット
『ブリスベン・クーリア』の発展/日曜紙・地方紙
- 2 西オーストラリア植民地
スターリング家/ハケット家と『ウェスト・オーストラリアン』
日曜紙・地方紙
- 3 南オーストラリア植民地
競争紙『アドバタイザー』現れる
『レジスター』、再びトーマス家の手に/日曜紙・地方紙
- 4 NSW植民地

日曜紙『サンデー・タイムズ』『トゥルース』
地方紙の台頭/朝刊紙『デーリー・テレグラフ』の創刊

第12章 電信の発達と通信社の成長	239
1 OT線の完成	
2 通信社の結成：第一次AAP	
3 APAの誕生	
4 APAとCUSの合併：第二次AAPの設立	
第13章 結論にかえて - 要約と国際比較	252
1 19世紀前半のオーストラリア植民地新聞界	
2 19世紀後半のオーストラリア植民地新聞界	
引用・参考文献一覧	261
初出一覧	

《付 録》別綴じ

図

[A. 総督・副総督一覧\(英文\)](#)

[B. 「新聞紙法」「印紙税法」\(原文\)](#)

[C. 主要新聞系統図：1803 - 現代](#)

[D. オーストラリアのマス・コミュニケーション略年史表：1788-1901](#)

[E. メディア・オーナーの流れ](#)

凡例および資料について

(1) 原則として現代かなづかいを用いたが、一部当用漢字以外の漢字あるいは音訓表以外の音訓も使用した。送りがなや外来語、外国の地名、人名の書き方は、共同通信社刊『新記者ハンドブック』(最新版)を参考にした。かたかな表記についての発音はオーストラリア英語・イギリス英語を優先し、一般慣例は米語を活用した。

(2) 新聞名はかたかなで表し、『 』を用い、続く()内に原名をイタリック体で表記し、初出の場合出来得る限り創刊年、発行期間なども示した。特に参照がない限り、次の文献を参考にした。

NEWSPAPERS IN AUSTRALIAN LIBRARIES: A Union List Part 2. Australian newspapers 4th ed. Canberra: National Library of Australia, 1985.

また、人名や地名はかたかなで示した後、()内に原名、生没年などを入れた。ただし、注の場合はこれらのかたかな表記などはしていない。新聞題名、地名などは必要に応じて略記扱いした。

(3) 引用・参考文献あるいは注釈すべきもの、挿図などの出典については本論の最後に一括して掲げた。洋書の引用・参考文献についての表記は、次の文献を参考にした。

Turabian, Kate L. *A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations*. Fourth Edition. Chicago & London: Univ. of Chicago Press, 1973.

ただし、本論・注の中で著者名(出版・発表年)のみを記した文献については、巻末の参考文献一覧を参照されたい。このため、参考文献類は、著者名の後に出版・発表年を()内に表記した。

(4) 新聞名、文献類の引用例

・『シドニー・ガゼット』(*Sydney Gazette and New South Wales Advertiser*, 1803.3.5-1842.11.20, w.)

w. = 週1回の発行

1803年3月5日創刊 1842年11月20日廃刊

・ジョン・ハンター総督(John Hunter, 1737-1821: 1795-1800)

生没年 総督在任期間

・HRA などからの出典の場合、次のように統一した。

HRA Ser.I, vol.X, p.581, Nov.30,1821, Macquarie to Bathurst.

植民地での発信日 発信者 受信者

《 略 記 》

- A D B* : Australian Dictionary of Biography
A E : Australian Encyclopedia , 2nd ed. & 3rd ed.
A G P S : Australian Government Publishing Service, Canberra ACT
A N U P : Australian National University Press, Canberra ACT
B A : *Bibliography of Australia*
A & R : Angus & Robertson, Sydney NSW
B A : *Bibliography of Australia*
D T : *Daily Telegraph* Sydney NSW
H R A : *Historical Records of Australia* , Ser.I, III & IV
H W T : Herald and Weekly Times
H R N S W : *Historical Records of New South Wales*
H T : Hobart Town, Tasmania
J H S Q : *Journal of Historical Society of Queensland*
J R A H S : *Journal of Royal Australian Historical Society*
M U P : Melbourne University Press, Melbourne Victoria
N L A : National Library of Australia, Canberra ACT
N S W : New South Wales ニューサウスウェールズ植民地 (州)
Penguin : Penguin Books Australia, Ringwood, Victoria
O U P : Oxford University Press, Oxford ほか
Q l d : Queensland クインズランド植民地 (州)
S A : South Australia 南オーストラリア植民地 (州)
S G : *Sydney Gazette and New South Wales Advertiser*
S H : *Sydney Herald*
S M H : *Sydney Morning Herald*
S U P : Sydney University Press, Sydney, NSW
T H R A : Tasmanian Historical Research Association
U Q P : University of Queensland Press, St.Lucia, Queensland
V D L : Van Diemen's Land ヴァンディエームズランド (タスマニア) 植民地 (州)
V i c : Victoria ビクトリア植民地 (州)
W A : Western Australia 西オーストラリア植民地 (州)

c . *circa* 'about'
comp., *comps.* compiled by, compiler(s)
ed., *eds.* edited by editor(s), edition(s)
facsim. facsimile
fl . *floruit*
fol., *fols* folio(s)

ibid.	<i>ibidem</i> 'in the same place'
n.	note(s)
n.d.	no date
n.p.	no place, no publisher including unknown
op.cit.	<i>opere citato</i> 'in the work cited'
p., pp.	page(es)
rev.	revised (by), revision
rpt.	reprinted (by), reprint
ser.	series
vol., vols.	volume(s)
3w.	週3回刊行
2w.	週2回刊行
w.	週1回刊行
sm.	月2回刊行(隔週刊)
d.	日刊
?	不明
+	現在でも引き続き発行されている
£	ポンド(十二進法)
s.	シリング
d.	ペニー

【本論書式構成】

使用ソフト MSワード 98/2000 エクセル 2000 プリンターCanon Lase Shot ほか

本文標準活字 10.5 ぽ MS明朝

本文1頁当たりの標準書式 横40字×縦40行=1,600字

=400字詰め原稿用紙換算 4枚

総ページ数..... 278頁 400字詰め原稿用紙換算 1,112枚

前文 12頁 " 48枚

本文 248頁 " 992枚

参考文献 18頁 " 72枚

付録

《図表及び出典一覧》

F = シドニー大学フィッシャー図書館 NSW = NSW州立図書館

* = オリジナル作成 その他記号・出典先は「文献」参照

表は本文中に、図のなかで家系図(5、18、28、44)も本文中に掲げたが、その他の図は添付資料集に一括してある。

[表]

1	植民地人口の変遷 (1) : 1788-1851 年	出所参照
2	『シドニー・ヘラルド』の価格変遷	Walker(1967), p.54.
3	シドニーの新聞発行部数 : 1827/36 年	Walker(1976), p.56.
4	シドニーの新聞価格 : 1830/35 年	Walker(1976), p.53.
5	『レジスター』の発行頻度 : 1836 ~ 38 年	Facsim.
6	ビクトリア植民地の新聞 : 1848 年	*
7	植民地人口の変遷 (2) : 1851-1900 年	出所参照
8	主要日刊紙の創刊 : 1850-90 年	*
9	『ジ・エイジ』小史 : 1860-1948 年	*
10	ビクトリアの新聞 : 1891 年	出所参照
11	Qld 地方紙の推移 : 1860-1900 年	出所参照
12	現存する Qld 地方紙 : 1992 年現在	出所参照

[図]

第1章

1	「町の警護人への指示」	Borchardt(1969), p.14.
2	「リクルーティング・オフィサー」公演ビラ	BA, vol.1, No.319
3	『NSW行動規程』	BA, vol.1, No.358
4	『シドニー・ガゼット』創刊号(1803年3月5日)	Facsim.
5	ハウ家系図	*
6	「ラム酒の反乱」	Coleman, p.11
7	『NSWポケット年鑑』1806年	BA, vol.1, p.432.
8	『オーストラリアン・マガジン』1821年	BA, vol.1, p.804.

第2章

9	『ダーウエント・スター』1810年4月3日	Borchardt(1969), p.25.
10	『ホバートタウン・ガゼット』1816年5月11日	Facsim.
11	『ホバートタウン・ガゼット』1816年6月1日	Facsim.

第3章

12	『ジ・オーストラリアン』創刊号(1824年10月14日)マイクロ(NSW)	
13	サッズ=トンプソン事件	Coleman, p.13. BA, vol.2, No.1660.
14	『モニター』(創刊号)1826年5月19日	Brodsky(1974), p.52.

第4章

- 15 『シドニー・ヘラルド』創刊号(1831年4月18日) Facsim.
16 『シドニー・ヘラルド』1831年5月2日 Facsim.
17 『シドニー・ヘラルド』1831年12月12日 Facsim.
18 フェアファックス家系図とSMH *

- 19 『コロニスト』創刊号(1835年1月1日) Brodsky(1974), p.73.
20 『アトラス』1844年11月30日 Brodsky(1974), p.89.

第5章

- 21 『マーキュリー』創刊号(1854年7月5日) マイクロ(F)

第6章

- 22 『ウェスタン・オーストラリアン・クロニクル』1831年3月19日 BA, vol.2, No.1502
23 『フリーマントル・オブザーバー』1831年6月11日 BA, vol.2, No.1428
24 『パース・ガゼット』創刊号(1833年1月5日) マイクロ(F)
25 『インクィジッター』1833年8月21日 BA, vol.2, No.1663
26 『西オーストラリア政府ガゼット』創刊号(1836年2月20日) BA, vol.2, No.2212

第7章

- 27 『レジスター』創刊号(1836年6月18日) Facsim.
28 トーマス家系図 *

- 29 『レジスター』1837年6月3日 Facsim.
30 『南オーストラリア・ガゼット』1840年11月12日 Pitt, p.6

第8章

- 31 『メルボルン・アドバタイザー』1838年1月1日 マイクロ(NSW)
32 『ポートフィリップ・パトリオット』1839年2月6日 マイクロ(NSW)
33 『ポートフィリップ・パトリオット』1843年1月5日 マイクロ(NSW)
34 『ジーロン・アドバタイザー』1854年12月6日 Oudtshoorn, p.25.
35 『ポートフィリップ・ヘラルド』1840年1月3日 マイクロ(NSW)
36 『メルボルン・モーニング・ヘラルド』1850年11月9-12日 Oudtshoorn, p.21.
37 『アーガス』創刊号1846年6月2日 マイクロ(NSW)

第9章

- 38 『シドニー・モーニング・ヘラルド』1851年5月15日 Oudtshoorn, p.23.
39 『シドニー・メール』1860年7月7日 マイクロ(F)
40 『エンパイア』創刊号(1850年12月28日) Brodsky, p.80.
41 『イブニング・ニューズ』1869年11月6日 マイクロ(NSW)
42 『T & C ジャーナル』1870年1月8日 マイクロ(NSW)

第10章

- 43 『ジ・エイジ』創刊予告案内(1854年10月) 125 Years of Age, p.2.
44 サイム家系図 *

- 45 『ジ・エイジ』1854年10月17日 マイクロ(F)
46 『アーガス』1846年6月2日 マイクロ(F)
47 『メルボルン・パンチ』1883年11月8日 Lindesay

第 11 章

- 48 『モートンベイ・クーリア』1846年6月20日 マイクロ (F)
49 『イブニング・オブザーバー』1893年2月8日 Oudtshoorn, p.45.
50 『クインズランダー』1866年2月10日 マイクロ (F)
51 Qld 植民地新聞の流れ:1846-73年 Cryle(1989), p.167.
52 『ジ・アドバタイザー』1858年7月12日 125 Yeras of *THE ADVERTISER*
53 『トゥルース』1879年10月16日 マイクロ (F)
54 『デーリー・テレグラフ』1884年1月1日 マイクロ (F)

第 12 章

- 55 O T 線図 SA Year Book (1972)
56 『レジスター』1872年8月23日 Oudtshoorn, p.37.

[植民地図]

- タスマニア植民地図 Clark, Vol.1, p.192.
植民地区分の変遷図 AE (3rd), Vol.5, p.425.
N S W 植民地図 Clark, Vol.2, p.202.
西オーストラリア植民地図 Clark, Vol.3, p.29.
南オーストラリア植民地図 Clark, Vol.3, p.53.
ビクトリア植民地図 Clark, Vol.3, p.464.

[顔写真]

- Wentworth, William Charles Brodsky, p.65.
Hall, Edward Smith Brodsky, p.65.
Wilson, Edward *The Argus* 9 Sept., 1926.
Fairfax, John Souter (1981)
Syme, Evenzer Sayers
Syme, David Sayers
Buzacott, CharlesHardie Cryle(1989), p.115.
⑧ Norton, John Cannon